

Ⅲ. 肺血栓塞栓症における凝固・線溶機能

3. 慢性肺血栓塞栓症の凝固・線溶系異常



杏林大学医学部第二内科助教 伊波 巧 (Inami, Takumi)

THROMBOSIS and Circulation

§ 論文のポイント

- [1] CTEPH の発症機序は不明だが、基本的には DVT・PE からの慢性移行とされ、炎症・免疫応答・遺伝子異常などを原因として血栓の不完全溶解によって起こるとされている。
- [2] 欧米では CTEPH の 75% で PE の既往を認めるものの、本邦では 37% と明らかに少ない。また欧米では男女比に差はないが、本邦では女性が多く、民族間で明らかに患者背景が異なる。
- [3] CTEPH では AT 欠乏症・プロテイン C/S 欠乏症との関連性の指摘はなく、現在関連性として認められているものは、血中第Ⅷ因子濃度の上昇と抗リン脂質抗体症候群である。

§ キーワード

慢性血栓塞栓性肺高血圧症／第Ⅷ因子／抗リン脂質抗体症候群